

サクラソウ日記

自学ノート提出数累計
522冊(324人)11/10 現在
文責 校長 宮脇 真一

正門前で子どもからお花（右の写真）をもらいました。服やマスクにふれるとくっついてしまうので大事に校長室に持ち帰りました。もう一つ持ち帰ったのはお花を渡すときに添えてくれたことば。

「校長先生、いつも挨拶してくれてありがとう」

先日講演をいただいた大津高校の平岡総監督は「一秒で相手を幸せにできる言葉」として「ありがとう」の話をされました。お花を渡しながらか、一言添えてくれた女の子の言葉に、私は元気をもらいました。「大津小学校にはこんな素敵な子どもがたくさんいます」と多くの人に知ってほしいという思いで、今週の通信をスタートします。

ちなみに、平岡総監督率いる大津高校は明日決勝戦。健闘を願い、先日の講演の感謝の気持ちとしたいと思います。



気持ちをありがとう
(令和4年11月10日撮影)

「じぶんのできるよ」～一年生の人権学習～

私たちは日々たくさんの人と、直接的に、間接的に接しながら生活しています。顔や名前を知っている人、顔を合わせれば挨拶をする人、時々話す人、家族と同じくらいたくさんのことを話す人などなど、関わる度合いは様々ですが、そんな中で相手について「知る」ことで、相手を多面的に理解することにつながります。また相手の一つ一つの行動の背景を知ること、相手のよさを知ることにもなります。また、冒頭に書いた「ありがとう」の一言で、気持ちがずっと楽になることもしばしばです。

今週、1年4組の学級活動（人権学習）の様子を、校内研修で参観しました。担任の三池先生は、「友だちを多面的に理解すること、おうちの人や友だちから褒めてもらうことで、自己肯定感を高める」ことを願い、「家庭生活における仕事を調べ、自分も家族の一員として働いた経験を作文に書いて読み合う」学習を展開されました。

校内研とはいえ40名近い先生たちに取り囲まれての授業は、何年生になっても緊張感が漂います。そんな中、緊張のため書いた作文を前に、なかなか言葉を発することにためらっている友だちに、「いいよいいよ」「手伝おうか」「言いたいことを言っていんだよ」という周りの子どもたちからの言葉がありました。

三池学級の学級通信には、いつも子どもたちの日記や作文が綴られていて、「互いを知る」試みが年間を通して実践されています。普段の生活の中では、互いの気持ちが通じ合わず、もめ事になることもありますが、互いを理解し合うための日々の取組が45分の授業の随所に感じられた、温かい授業を共有することができました。

おめでたい話

令和5年度用国土緑化・
育樹運動ポスター
小学校の部
5年 優賞 高田義望 さん
※5年生の優賞は県下2名です！
高田さんおめでとう！

勝原先生 ご結婚

勝原先生が結婚され「長尾彩賀」先生になりました。話をきいた1年2組の子どもたちは、一斉に先生の新しい名前をメモし、また旧姓も一緒に書いて「出会ったときのあやか先生の名前も忘れないようにしたい」とのことでした。



熊本県教育功労（優秀教職員）表彰

5年1組の緒方奈々指導教諭が、上記表彰を受けました。県内10名が表彰されたフレッシュキャリア部門での受賞です。

<https://es.higo.ed.jp/oozu/>

に詳細を掲載していますので、ご覧ください。



緒方指導教諭（左）と吉良教育長